(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2016-13231
(P2016-13231A)
(43)公開日　平成28年1月28日(2016.1.28)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A43B 3/00	(2006.01)	A43B	3/00	103D	4F050
A43B 3/10	(2006.01)	A43B	3/10	C	
A43B 13/14	(2006.01)	A43B	13/14	C	

審査請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 7 頁）

(21)出願番号　特願2014-135829 (P2014-135829)
(22)出願日　平成26年7月1日 (2014.7.1)

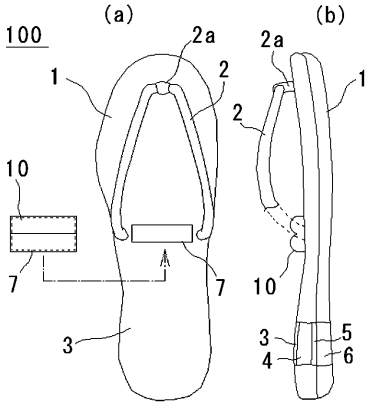
申請有り

(71)出願人　501125817
株式会社オクムラ
大阪府大阪市浪速区日本橋東一丁目７番１７号　第２オクムラビル
(74)代理人　110001771
特許業務法人虎ノ門知的財産事務所
(72)発明者　鎌苅　悦子
大阪府大阪市浪速区日本橋東１－７－１７　第２オクムラビル　株式会社オクムラ内

Ｆターム(参考)　4F050 AA15　AA22　HA38　HA56

(54)【発明の名称】履物

(57)【要約】
【課題】　使用を継続することで次第に足の裏の汚れが足裏押圧部材に付着して臭いの原因となったり、雑菌が発生したりすること。
【解決手段】　この草履形スリッパ１００は、表面に面テープ７が設けられた本体１と、当該本体１に足を載せたときにその足先を前記本体１に係止する足先係止部２，２ａと、前記本体１の表面に設けた面テープ７と対の面テープ７を裏面に設け且つその断面が凸状であると共に炭が加えられた足裏押圧部１０とを備えている。本発明では、足裏押圧部１０に炭を加えることで脱臭、抗菌の作用が得られる。また、面テープ７により足裏押圧部材１０を本体に着脱自在とするので、ユーザが足裏押圧部の位置を最適に調整できる。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
表面に面テープが設けられた本体と、
当該本体に足を載せたときにその足先を前記本体に係止する足先係止部と、
前記本体の表面に設けた面テープと対の面テープを裏面に設け且つ断面が凸状の凸部材を並設して当該凸部材の間を屈曲可能な厚さの連結部位で連結した足裏押圧部と、
を備えたことを特徴とする履物。
【請求項２】
前記面テープは、前記本体の土踏まずの位置に設けられていることを特徴とする請求項１に記載の履物。
【請求項３】
前記足裏押圧部材は、少なくとも表面に炭が加えられていることを特徴とする請求項１又は２に記載の履物。
【請求項４】
前記足裏押圧部材はウレタン樹脂であり、粒子状の前記炭が当該ウレタン樹脂に含浸されたものであることを特徴とする請求項３に記載の履物。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、足裏を刺激して健康を増進する履物に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来から特許文献１に開示されているような健康履物が知られている。この健康履物は、履物底に凹部を設け、この凹部に対して嵌るような凸部を有する足裏押圧部材を有する。足裏押圧部材は、凹部から取り出して反対側を向け、その平坦部を前記凹部に嵌め込むことで、前記凸部が上を向く。これにより、足の裏が刺激されるので使用者の健康が促進される。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開平１１－１３７３０３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、上記従来の健康履物は、足裏押圧部材自体が屈曲しない構造であるため、歩行の際に違和感が生じてしまうという問題点がある。また、使用を継続することで次第に足の裏の汚れが前記足裏押圧部材に付着して臭いの原因となったり、雑菌が発生したりする問題点がある。この発明は、係る問題点を解決するためになされたものである。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本発明に係る履物（草履、スリッパ、ルームシューズを含む）は、表面に面テープが設けられた本体と、当該本体に足を載せたときにその足先を前記本体に係止する足先係止部と、前記本体の表面に設けた面テープと対の面テープを裏面に設け且つ断面が凸状の凸部材を並設して当該凸部材の間を屈曲可能な厚さの連結部位で連結した足裏押圧部とを備えたことを特徴とする。
【０００６】
本発明では、また、面テープにより足裏押圧部を本体に着脱自在とするので、ユーザが足裏押圧部の位置を最適に調整できる。また、凸部材を並設して当該凸部材の間を屈曲可能な厚さの連結部位で連結したことで、本体の変形に追従して屈曲する。このため、歩行

時の違和感がない。
【０００７】
また、本発明に係る履物は、上記発明において、前記面テープは、前記本体の土踏まずの位置に設けられていることを特徴とする。
【０００８】
また、本発明に係る履物は、上記発明において、前記足裏押圧部材は、少なくとも表面に炭が加えられていることを特徴とする。足裏押圧部に炭を加えることで脱臭、抗菌の作用が得られる。
【０００９】
また、本発明に係る履物は、上記発明において、前記足裏押圧部材はウレタン樹脂であり、粒子状の前記炭が当該ウレタン樹脂に含浸されたものであることを特徴とする。
【図面の簡単な説明】
【００１０】
【図１】この発明の実施の形態１に係る草履形スリッパを示す説明図である。
【図２】図１に示した草履形スリッパの足裏押圧部材を示す斜視図である。
【図３】この草履形スリッパの使用状態を示す説明図である。
【図４】足裏押圧部材の変形例を示す斜視図である。
【図５】足裏押圧部材の変形例を示す説明図である。
【図６】足裏押圧部材の変形例を示す説明図である。
【図７】本発明をスリッパに適用した場合の例を示す説明図である。
【図８】本発明をルームシューズに適用した場合の例を示す説明図である。
【発明を実施するための形態】
【００１１】
図１は、この発明の実施の形態１に係る草履形スリッパを示す説明図であり、（ａ）に平面図、（ｂ）に側面図を示す。図２は、図１に示した草履形スリッパの足裏押圧部材を示す斜視図である。この草履形スリッパ１００は、足の形状をした本体１と、本体１に設けた緒２とからなり、前記本体１は、肌触りの良い素材からなる天布３と、ウレタンや不織布等により構成された板状のクッション材４と、プラスチック等からなる芯材５と、ビニールやゴム等の耐摩耗性および耐水性の高い素材で構成した底材６とを積層した構造である。前記緒２は、高いクッション性を有する紐状体で構成される。鼻緒２ａも同様の素材で構成される。なお、芯材５は、省略しても良いし、旅行等に携帯しやすくするためにウレタンゴム等の柔い素材で構成しても良い。
【００１２】
天布３の表面であって足の土踏まずの位置には、面テープ７が設けられている。天布３に設ける面テープ７は、ほこりの付着等を防止するためループ状となっている雌側とする。この雌側の面テープ７に対し、足裏押圧部材１０を着脱可能に設ける。足裏押圧部材１０の裏面には、雄側の面テープ７が設けられる。前記面テープ７は、天布３の上面長手方向に対して略直交方向に配置されている。即ち、長尺の面テープ７が天布３のちょうど土踏まずの位置に対し、草履形スリッパ１００の長手方向に対して略直交方向に配置される。面テープ７の幅は、前記足裏押圧部材１０の幅より小さく、半分程度とするのが好ましい。これは、面テープ７に対して足裏押圧部材１０の取付位置を微妙に変更できるようにするためである。逆に足裏押圧部材１０の裏面は全てを面テープ７とするのが好ましい。
【００１３】
また、前記足裏押圧部材１０は、断面かまぼこ形状の凸部材１１を２つ並設した形状となる。凸部材１１同士の連結部位１２は、直線状であって且つ厚さｈは全高Ｈに対して半分かそれ以下となり、この連結部位１２にて屈曲可能となる。これにより、土踏まずの部分に足裏押圧部材１０を取り付けて歩行する際、足裏押圧部材１０が本体１の屈曲変形にあわせて変形するようになるので、足裏押圧部材１０を装着した状態でも歩行の際の違和感が軽減される。
【００１４】

足裏押圧部材１０は、全体がポリウレタン樹脂で形成されており且つ全体に炭が含まれている。炭は、竹炭、木炭のいずれでも良い。これらの炭を粒子状にし、ポリウレタン系樹脂に含浸させてある。炭粒子の含浸は、必要により添加剤等を加えたうえでロールコータ法等の炭粒子の含浸に用いる公知の方法により行うものとする。なお、炭の添加方法は、これに限定されるものではない。足裏押圧部材１０に炭を含浸させることで、脱臭、抗菌の効果が得られる。また、炭が遠赤外線を放出することから、足の裏に対して遠赤外線の温熱効果を与える。

【００１５】

図３は、この草履形スリッパの使用状態を示す説明図である。足裏押圧部材１０は、ポリウレタン樹脂により形成されるので、体重により変形する。これにより、土踏まずに程よい刺激が与えられる。また、断面がかまぼこ形状であるから、力が比較的分散されるので、ソフトな感覚で土踏まずを刺激できる。また、図３の拡大図に示すように、足裏押圧部材１０が本体１の屈曲変形にあわせて変形する（変形前を点線で示す）。これにより、違和感のない歩行が可能となる。

【００１６】

図４は、足裏押圧部材の変形例を示す斜視図である。この足裏押圧部材３０は、凸部材３１がアレイ状に設けられ且つ各凸部材３１同士の間の連結部位３２が格子状となっている。具体的には、凸部材３１が横３列縦４列の組み合わせとなる。この足裏押圧部材３０の裏面には、上記同様の面テープ７が設けられる。係る構造の足裏押圧部材３０は、本体１の変形に追従して自在に屈曲変形するので、歩行時の違和感がない。

【００１７】

更に、天布３に設けた面テープ７は雌側であるので、素足が触れてもソフトである。このため、図５に示すように、天布３の上面の略全体ないし広範囲に面テープ３７を設けることで、足裏押圧部材１０を着脱可能な領域を増やしても良い。図５では、足裏押圧部材１０を様々な位置に取り付けた状態を点線で示す。

【００１８】

また、左右一方側の足裏押圧部材１０を取り外して他方側に２個の足裏押圧部材１０を装着して使用することもできる（図示省略）。また、天布３側を対向させて左右の本体１を重ねて収納する場合、足裏押圧部材１０を左右でずらして装着することでコンパクトに収納できる。このため、当該草履形スリッパ１００は、飛行機やホテル等の旅先での使用に適しているといえる。

【００１９】

なお、前記足裏押圧部材１０は、面テープ７により天布３に対して着脱自在であるから、その取付方向は、面テープ７により固定される限りにおいて自由である。例えば、長手方向を本体１の長手方向に合わせて配置することもできる。また、本体１の長手方向に対して斜めに配置することもできる。

【００２０】

図６は、足裏押圧部材の変形例を示す説明図である。この足裏押圧部材４０は、図６（ａ）に示すように、凸部材４１の断面が略三角形である。このような形状でも連結部位４２での屈曲が容易であり且つ足裏に刺激を与えることができる。更に、足裏押圧部材４５は、図６（ｂ）に示すように、凸部材４６が平面視で全体が楕円形であって中央にＶ溝４７が形成されたものでも良い。更に、足裏押圧部材４８は、図６（ｃ）に示すように、凸部材４９の全体が所定の厚さを有する円形であって中央に溝５０が形成されたものでも良い。

【００２１】

図７は、本発明をスリッパに適用した場合の例を示す説明図であり、（ａ）は平面図、（ｂ）は側面図を示す。このスリッパ２００は、本体２０１の天布２０３の表面であって足の土踏まずの位置に上記面テープ７を設けた構成である。そして、面テープ７に対し、足裏押圧部材１０を着脱可能に設ける。本体１には、足先を係止する足入部２０２が設けられている。また、足入部２０２の上面に面テープを設けて足裏押圧部材１０を着脱可能

としても良い。このようにすれば、足裏押圧部材１０を使用しないときに、当該位置に保持しておけるので便利である。

【００２２】

図８は、本発明をルームシューズに適用した場合の例を示す説明図であり、（ａ）は平面図、（ｂ）は側面図を示す。このルームシューズ３００は、本体３０１の天布３０３の表面であって足の土踏まずの位置に上記面テープ７を設けた構成である。そして、面テープ７に対し、足裏押圧部材１０を着脱可能に設ける。本体１には、足先を係止する足入部３０２が設けられている。ルームシューズ３００は柔らかい素材で構成されているため、自在に変形する。前記足裏押圧部材１０は上記の如く構成されており、本体３０１の変形に応じて変形するため、歩行時の違和感がない。

【００２３】

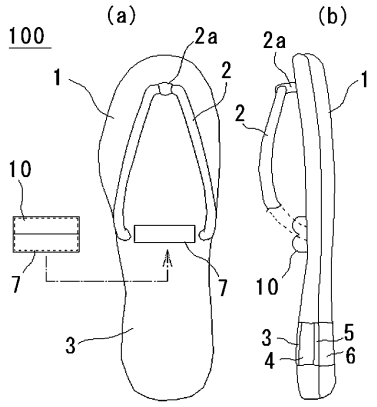
また、上記例では、足裏押圧部材１０をポリウレタン樹脂により形成したが、当該足裏押圧部材１０は、内部にクッション材を封入して外装を革または布で覆った構造としても良い。布の場合、炭を含浸させたものを用いることができる。また、凸部材４１をプラスチックや木等で形成し、前記凸部材４１より厚さが薄い連結部位４２で連結すると共にこの連結部位４２を可撓性の素材（プラスチック、木、布、革等でも良い）で構成しても良い。

【符号の説明】

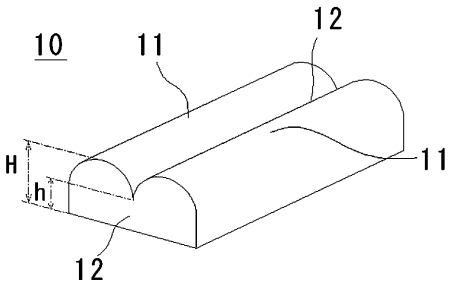
【００２４】

１００　草履形スリッパ
１　本体
２　緒
３　天布
７　面テープ
１０　足裏押圧部材
１１　凸部材
１２　連結部位

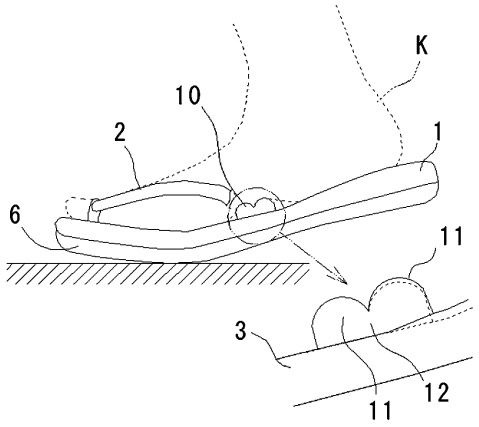
【図１】



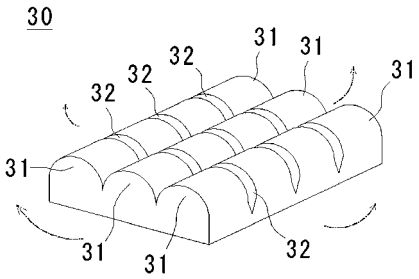
【図２】



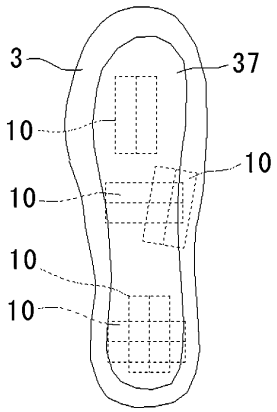
【図３】



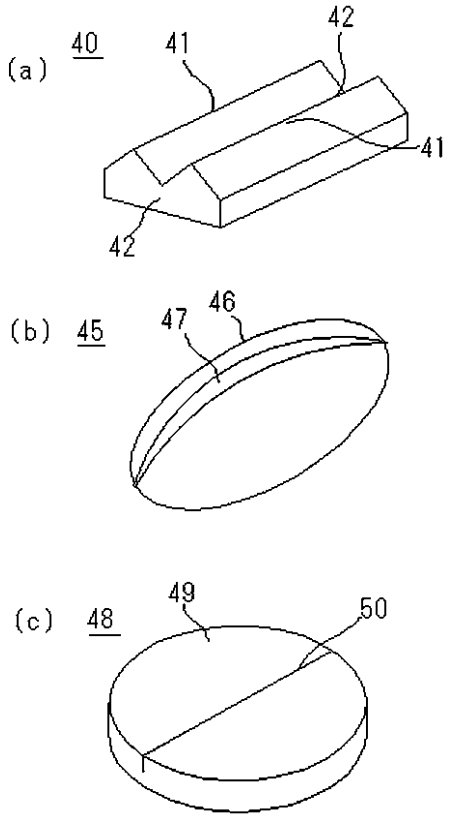
【図４】



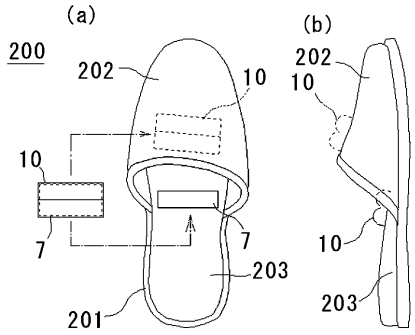
【図５】



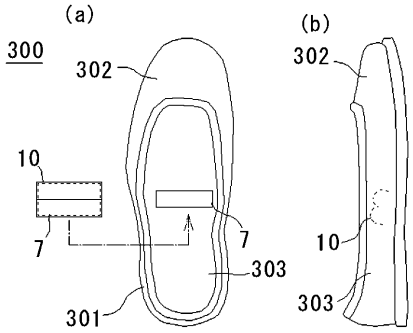
【図６】



【図７】


(a)
200
202
10
10
7
7
203
201
(b)
202
10
10
203

【図８】


(a)
300
302
10
7
7
303
301
(b)
302
10
303